

独自ガイドラインを制定し、学生の効果的な活用を促進 全学生約 9,500 人に向け新たに生成 AI 「Gemini」などを導入

追手門学院大学（所在地：大阪府茨木市、学長：真銅正宏）は、2026年4月より、全学生を対象に生成 AI ツール「Gemini」や「Notebook LM」の利用環境を公開しました。あわせて、学生が適切に生成 AI を活用するための「学生向け生成 AI 利用ガイドライン」を制定し、各授業における利用方針を明示する運用を開始しました。

本取り組みは、生成 AI を「答えを出す機械」ではなく「思考を拡張する相棒」と位置づけ、授業等においても効果的に活用しながら質の高い学びの提供を促すものです。

生成 AI 時代に対応した大学の教育方針を再定義し、堅牢なデータ保護とセキュリティ基準が適用されたアカウントの提供を通じて、生成 AI を活用した新時代の教育を推進していきます。



学生の利用イメージ

【記事のポイント】

- 全学生を対象に「Gemini」と「Notebook LM」を公開。大学アカウントの利用により、データ保護とセキュリティを確保した生成 AI 利用環境を整備。
- 学生の学びにおける生成 AI との向き合い方を示したガイドラインを提示。
- 学生の主体的な思考を促し、生成 AI に依存しない判断力を養う教育を目指す

初等中等教育段階では文部科学省から生成 AI の利活用に関するガイドラインが示され、2024年の調査では大学生の約7割が生成 AI を利用したことがあると回答するなど、教育現場においても生成 AI が広く利用されるようになっていきます。一方で、安易な利用による思考機会の逸失や情報漏洩のリスクなども懸念されます。本学は、適切な利用環境と指針を同時に提供することで、生成 AI を適切に活用し、教育の質を高める取り組みを推進していきます。

本取り組みでは、入力されたデータの保護等、学生がセキュアに生成 AI を利用できるよう、大学が付与する学生アカウントを通じて「Gemini」や「Notebook LM」を利用可能とします。

あわせて、学生の学びにおける生成 AI との向き合い方を示した「生成 AI 利用ガイドライン」を制定しました。ガイドラインでは、各授業での生成 AI の利用方法として「原則禁止」「条件付き許可」「積極的利用」の3段階を設定し、各教員は授業の初回にこの3段階のいずれか、またはその組み合わせを明示します。本ガイドラインは、生成 AI を単なる情報検索的ツールではなく、自らの思考を深めるための「壁打ち相手」として活用することを基本的な考え方とします。学生が自ら考えた問いをもとに生成 AI と対話し、複数の出力を比較・検証しながら判断し、新しい価値を生み出すための道具として適切に活用できる環境の構築を目的としています。

今後、教員向けガイドラインの作成、AI に関わるリテラシーや活用方法などを学ぶ初年次教育の導入も検討しています。

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-665-9166 西村・織田